

2017 斑尾山&鍋倉山 日帰りスノーシュー登山

◎ 期日：2017年3月8日～9日

◎メンバー：会員5名 Ak (CL)、Tsuk (SL) Fru、Sachi、Mitsu

<報告：Fru>

(1日目/斑尾山)

斑尾山は長野県と新潟県との県境にあって妙高山(2,454m) 黒姫山(2,053m) 飯綱山(1,917m) 戸隠山(1,904m)と並ぶ北信五岳の中では一番標高が低く1,382mの火山です。ふもとの斑尾高原には大きなスキー場があって、複数のゲレンデが広がっています。そこにあるリフトを2本乗り継いだ後に終点からスノーシューを履いて登り始めました。

出発前の予報ではあまり芳しい天気ではなかったのですが、関越から上信越自動車道に入って千曲川を渡った後に12時少し前に到着してみると、青空がのぞく好天気。風もさほどのことは無く、晴れ女と称するシリウスの女傑2名が‘お陰さまで’と自画自賛。

リフトの終点では春休みの所為か、学生らしい大勢の若者たちが元気よくスノーボードに乗って次々に滑り降りている。場違いな感じのする高齢者集団の男女5名がスノーシューを履いて、コースに沿ってブナ林の立ち並ぶ緩やかな緩斜面に牛乳を流したように作られたスキーのコース沿いに、その脇をコースに踏み込まないように気をつけながら登りだした。

雪は程よく締まっており、スノーシューの歯も良く噛んで歩きやすくて順調に登っていたのだが、病み上がりの私には負荷が大きく、山頂の直前で足が止まって動かなくなってしまった。息を整えて何とか乗り越えた。時間は午後1時05分。山頂から西に急坂を、‘そんなところ降れない’というXさんの声を余所に、先の4人は30分をかけて野尻湖の見えるところまでを往復。直ぐ後でリフトの終点では野尻湖を下に見て、妙高や黒姫、を遠望する絶好の展望が得られました。ご苦労様でした。



行きは良いよ帰りは何とかで、スキーのコースに沿って降り始めたのだが、スノーボーダーと接触すると怪我をするので、コースを避けて脇道や林間をジグザグに降り始めました。スノーボーダーが走った後をスノーシューで歩くと非常に歩きづらく、高低差のあるところでは雪面が直ぐに崩れるので、片側が落ち込んでいるような所では慎重に歩かざるを得ず、足の筋肉と両腕の筋肉までが硬くなってしまった。先行のTsukさんと女性陣が急な傾斜に入って、恐る恐るの歩きをする一方、後発のAkとFruはコースに近い林間を降りて雪が多少緩んで足首まで嵌るような深い踏み込みをしながら、何とかゲレンデにたどり着きました。途中でスノーボーダーが‘この山を登って降りて来たんですか?’と半ば驚いた表情で問いかけていました。

下山後は近くの飯山市のビジネスホテルに宿泊。一泊の料金が4,000円～4,300円。費用は安くて好いものの、お風呂が小さくて、やはり3～4,000円足しても温泉で泊まりたかったかな。夕食は生姜焼き定食が3人とカツ丼が1人、あと1人はおつまみにお酒。疲れて居たのだろう、日米野球を見ているうちに2回かそこいらで寝てしまった。

(2日目／鍋倉山)

朝食は各自の部屋で前日に高速道のサービスエリアで買ったおにぎりを食べて6時50分にホテルを出発。鍋倉山は長野県の北部、新潟県との県境にあって標高1,289mのブナの森が素晴らしい比較的緩やかな稜線が横に長く続くトレッキング向きの山。左手に鍋倉山を見上げる地点で車を降りてから登り始める。

今日は結構な距離があった。ガイドブックでは夏道で、歩行距離6km、歩行時間3時間5分とあった。信濃川や苗場山に烏甲山などが見えるとある。ホテルを出て7時10分に温井除雪終了点に。そこで車を降りて直ぐにスノーシューを履いて登り始める。今日も天気は予想に反して好天気、晴れ女達のお陰だと密かに口にする。樹氷が朝日を浴びて清々しい。



雪が深く40～50センチほどもあるが先行者のトレースがあるので左程のラッセルをせずに進むことが出来る。昨日の斑尾山と違って今日は傾斜が緩やかなので昇りやすい、と思って、暫く行くとスノーボードの滑り後に入り、傾斜面になっているので、そこに踏み込むと簡単に雪面が崩れて足が流れてしまう。難しいコースではないのだが歩きにくく、思うように先に進めない。斜面に沿って歩くので両手のストックの長さが合わず余計に肩や腕の筋肉が張ってしまう。しかし辺りは素晴らしいブナ林で春の新緑にはどんなにいい場所だろうかと思わせる所だ。そうこうするうちに、緩斜面から先のほうに見える小高い山を目指して登るようになった。その頃から少し雪が緩み始めたのだが、そうするとスノーシューの歯に雪が団子状に固まって、いわゆるアイゼンの高下駄のような状態になり始めた。自分のスノーシューだけの状態だったのだが、とにかく歩きづらい。数歩歩いては雪をストックで振り落とす作業を繰り返して進むのだが直ぐに高下駄になってしまう。高下駄になるとストッパーも効かなくなるし左右に振られるので、切れ落ちた場所では危なくて仕方が無い。のろのろと登っていたが後ろで見かねたAkさんが自分のスノーシューと取り替えてくれた。先行のSachiさんが何か叫んでいるが何を言っているのか分からない。近づいて聴くと前に行くTsukさんがこの先、上を目指すのか、迂回して下山の方向に向かうのかを聞いている。かなりのラッセルを強いられていた。Akさんが非情にも「ここまで来たから上へ行こうよ」と進行指令。急斜面をジグザグに深々と雪に足を沈めながら胸突き八丁、額に汗してやっとこさで頂上に到着した。本来の頂上では無いようなのだが、少し手前のピークに何とか頑張って取りついたという次第。



あとは長い尾根をひたすら降りるだけ。アアア・・疲れました。13時10分温井集落に到着。

<記録>

1日目：斑尾スキー場第3Aリフト終点 12:20→12:55 斑尾山頂上 13:05

→13:15 大明神 13:25→13:40 斑尾山頂上 13:40→14:00 リフト終点

14:00→15:35 第8駐車場

2日目：ホテル 6:50→7:10 温井除雪終了点 7:25→10:50 東尾根 11:20→13:10

温井集落

「会員の山行リスト」に戻るには 画面最上部左端の 戻るボタン ← で 戻って下さい